

# 地域公共交通計画の事業実施状況と評価について

令和5年5月30日(火)

三重県東員町 政策課

# 主な事業実施状況と評価①



## 【基本目標1-3】持続可能な仕組みの構築／【基本目標3-1】オレンジバスの再編

- ・オレンジバスの運賃収入は令和3年度と比較し222,790円増加し、収支率が0.3%上昇
- ・オレンジバスの乗車人員は令和2年度と比較し9,527人減少。新型コロナウイルス感染症による利用者の減少分が約6割、令和3年4月から実施した運賃改定による利用者の減少分が約3割と分析。

	運賃収入額	収支率	乗車人員
R2	7,246,926円	9.9%	83,844人
R3	11,107,311円	14.3%	80,092人
R4	11,330,101円	14.6%	74,317人

### 【実施事業の評価及び効果について】

東員町地域公共交通計画 P28より

#### (3) 評価と改善策の実施

本計画に示した事業については、実施スケジュールに対して的確に実施しているかどうか、どのような実施効果があったか、改善すべき事項などについて毎年度評価し、必要に応じて改善することとしています。

## 評価・次年度に向けた課題や取り組み

- ・沿線自治会とバスルートについて協議を実施するなど、利用者にとって利便性の高いルートへの見直しに向けた取り組みを進めていることを評価。次年度については、町の中心エリアへのアクセスを重視したルートや、鉄道、路線バスとの接続を調整したダイヤを決定し、10月から新ルート・ダイヤで運行を開始できるよう取り組む。

# 主な事業実施状況と評価②

## 【基本目標2-1】交通結節点の利便性向上

・国の補助を活用した取組で、東員町が中心となり、民間事業者と協力し、町陸上競技場をホームグラウンドに活動するサッカーチームのラッピングの車両を作成しR4.4.1から運行を開始。ホームゲームの開始時刻に合わせてラッピング車両を充当するなど、サッカー観戦者が公共交通を利用するよう促し、観光事業と連携した公共交通の利用促進施策を実施。

	東員駅の乗車人員
R2	139,089人
R3	140,466人
R4	155,584人



## 評価・次年度に向けた課題や取り組み

・観光事業と連携した取組みにより、東員駅の利用者が昨年度より増加したことを評価。次年度については、鉄道、路線バスとの接続を調整したダイヤを決定し、10月から新ルート・ダイヤで運行を開始できるよう取り組み、乗継の利便性向上を図る。

# 主な事業実施状況と評価③

## 【基本目標4-1】外出支援

・翌年度に75歳になる人については、申請などの必要はなく、75歳になる前年度の3月末頃に、町からパスが送付される仕組みにより、昨年度よりもパスを持つ人が増加したことや、おでかけ元気パス事業の開始から2年が経過し、制度が定着してきたことで、利用者が増えたと考察。

	おでかけ元気パスの利用者数
R2	—
R3	16,656人
R4	17,496人



## 評価・次年度に向けた課題や取り組み

・次年度も引き続き、高齢者が公共交通を利用して移動ができる環境づくりのため、おでかけ元気パス事業を実施するとともに、高齢者の外出を促すためのパスとして、オレンジバスの運賃半額だけではなく、さらなる特典や利用事業の拡大を検討する。

# 主な事業実施状況と評価④

## 【基本目標4-2】公共交通の魅力発信

- ・町内で開催されたイベントに公共交通ブースを出展し、オレンジバス、北勢線の利用促進活動を実施。(9/17TOINマルシェ、10/9コスモスまつり)
- ・オレンジバス車内に設置したデジタルサイネージで、TOINマルシェ及びコスモスまつりで募集したオレンジバスぬりえのデジタル展示を実施。
- ・公共交通の相互利用の促進を目的に、北勢線のサンタ電車のイベント時に合わせオレンジバスの無料乗車券を発行し、配布。  
(利用枚数：南北線49枚、東部線5枚)



## 評価・次年度に向けた課題や取り組み

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていなかったオレンジバスの利用促進活動や、北勢線の利用促進事業(サンタ電車)と連携したオレンジバスの無料乗車券の取り組みを実施できたことを評価。次年度は桑名市もバスの無料乗車券を発行する予定であり、さらに広域的な取り組みになることを期待する。